

とよびらのまちに響く

メロデー



皆さんは地域で生まれた歌、地域をイメージした歌が区内に数多くあることをご存じですか。今月は、その中から地域のシンボルとして、多くの方に親しまれている歌をご紹介します。地域を再認識するきっかけとして、皆さんもこのような歌に親しんでみてはいかがでしょうか。

月寒の少年

日本の歌謡界を代表する作曲家・星野哲郎氏と作曲家・船村徹氏が手掛けた、「月寒の少年」。昭和三十五年

に世に出たものの、当時は地元でもあまり知られていませんでした。

平成六年、月寒地区町内会連合会女性部の会合で歌が紹介されたのがきっかけで、この歌のレコード探しが始まりました。「歴史ある月寒のイメージアップに」との思いがありました」と当時を振り返るのは、同連合会女性部長の高山玲子さんです。

小樽のレコード収集家のもとで見つけた「月寒の少年」は、「幻のレコード発見！」と地元で大きな話題を呼びました。牧童を主役



親子ふれあいコンサートで披露される「月寒の少年」

34年ぶり 幻のレコード発見!!



「『月寒の少年』市民会議」のメンバー。前列右端が高山さん、右から2番目が石井さん

に晩秋の月寒の情景を織り込んだ歌詞、

♪夕日がすべる 野の果てに ※ と、少年合唱団のソプラノで始まる牧歌的なメロディーは、昔の月寒の風景を思い出させてくれる叙情歌です。

また平成七年には、この歌を地域に根付かせようと、「月寒の少年」市民会議が発足。

歌の普及のほか、史跡めぐりや月寒の歴史にゆかりのある施設の見学会、子どもたちの希望を育むための講演会など、活発な活動を展開しています。

現在この歌は、地域住民が主催するコンサートなど、さまざまな行事で親しまれるようになりました。

同会議議長の石井省三さんは、「この歌は、月寒に住むわたしたちに、時代を超えた郷愁を思い起こさせてくれます。この素晴らしい歌を後世に伝えていきたい」と笑顔で話してくれました。

中の島 ミッドアイランド

中の島地区のイメージソングとして、平成七年に誕生した「ミッドアイランド」。作詞・作曲・編曲、そして曲に合わせた振り付けのすべてを手掛けた、ミッドアイランドの生みの親は、当時中の島小学校に勤務していた佐藤直哉さんです。

小学校に勤務する傍ら、ラテンやジャズバンドに参加するなど、ミュージシャンとしても活躍する佐藤さんは、「町内会の方からお話をいただいたのがきっかけです。恋とりんごの実る街」というイメージで詞を作り、子どもからお年寄りまで、誰もが歌って踊れる、明るいラテン調の曲に仕上げました」と制作当時を振り返ります。

育ての親ば地域住民

♪虹の橋をわたれば 幸せが確かにある そんなミッドアイランド 恋とりんごの実る街

これは、ミッドアイランドの歌詞の一部ですが、歌を聴いた人が思わず踊り出したくなるような、陽気で軽快なリズムが特徴です。

「中の島は、立場が違っても互いに分かり合える人たちが集うやさしいまち。今でも地域の行事でこの歌が披露されているということを聞くと、とてもうれしいです。ミッドアイランドの生みの親はわたしですが、育ての親は中の島の皆さんです。これからも地域の人たちでこの歌を育てていってこれれば幸せですね」と語ってくれた佐藤さん。

ミッドアイランドは、いつまでも中の島の人たちの心に響き渡ることでしよう。



現在は、平和小の教壇に立つ佐藤さん



ミッドアイランドを踊るなかのしま幼稚園の園児たち